

- (19)【発行国】日本国特許庁（ＪＰ）
(12)【公報種別】公開特許公報（Ａ）
(11)【公開番号】特開平９－１０２０６５
(43)【公開日】平成９年（１９９７）４月１５日
(54)【発明の名称】缶（ビン）ジュース（ビール）を多種類自動販売機に容易に入れられる道具。
(51)【国際特許分類第６版】

G07F 9/00 108 B65B 39/00

【ＦＩ】

G07F 9/00 108 B65B 39/00 C

【審査請求】未請求

【請求項の数】１

【出願形態】書面

【全頁数】３

- (21)【出願番号】特願平７－２９３２１３
(22)【出願日】平成７年（１９９５）１０月５日
(71)【出願人】
【識別番号】５９５１５９２２０
【氏名又は名称】有限会社森商
【住所又は居所】神奈川県川崎市中原区井田２４１番地
(72)【発明者】
【氏名】森田 正治
【住所又は居所】神奈川県川崎市中原区井田２４１番地
(74)【代理人】
【弁護士】
【氏名又は名称】丸山 和也

(57)【要約】

缶（ビン）ジュース（ビール）の多種類自動販売機に缶（ビン）ジュース（ビール）を容易に入れられる道具。

【目的】缶（ビン）ジュース（ビール）を多種類自動販売機に入れる時間を短縮する。

【構成】缶（ビン）ジュース（ビール）の箱の蓋を開け、道具を箱に差し込み、箱を傾けることにより、缶がレールの上を流れ、多種類自動販売機に、（ビン）ジュース（ビール）を短時間に挿入してしまいます。

【特許請求の範囲】

【請求項１】缶（ビン）ジュース（ビール）の箱に、図１のような道具を、ジュースの箱の、蓋を開けた状態のところへ差し込み、箱を傾けることによって、ジュースを、多種類自動販売機に、短時間で挿入してしまいます。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】この考案により、いままで缶（ビン）を自動販売機に１箱分（３０本）入れる所要時間は２分前後かかっていたが、考案した方法で行うと約５秒で完了する。

【０００２】

【従来の技術】箱の上部の蓋を開け、手で1本1本、自動販売機に入れていた。かなり慣れた人でも、一度に4本を持つのが精一杯であり、いままでは完全に手作業であった。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】缶（ビン）ジュース（ビール）を、多種類自動販売機に入れる時間の短縮。

【0004】

【課題を解決するための手段】缶（ビン）ジュース（ビール）の箱に、図1の道具を箱に差し込むことにより、ジュースがレールの上を転がり、多種類自動販売機の中に入ってゆく。

【0005】

【作用】缶（ビン）ジュース（ビール）を瞬時（約5秒）に、多種類自動販売機に挿入できる。

【0006】

【実施例】缶（ビン）ジュース（ビール）が流れ込むように、多種類自動販売機に入ってゆく。所要時間は約5秒であった。

【0007】

【発明の効果】缶（ビン）ジュース（ビール）の販売業者が、2台の自動販売機がある店頭で作業をする場合、売れ行きの良い時などは詰め替え、集金などの作業に店一軒あたり約20分かかっていたが、この道具を使用すると、約10分の時間が短縮できる。1日に20軒の店を回って作業すると約3時間の時間が短縮でき、労働時間短縮、若しくは営業の拡大が見込まれる。労働時間短縮は人件費の節約にも繋がる。店主や店員が店頭で自分で作業する場合にも、時間短縮が見込まれ、その効果は大きいと思われる。

【図面の簡単な説明】

【図1】製品の見取り図

【図2】製品の正面図

【図3】箱の側面図

【図4】製品をジュースの箱に差し込んだところ

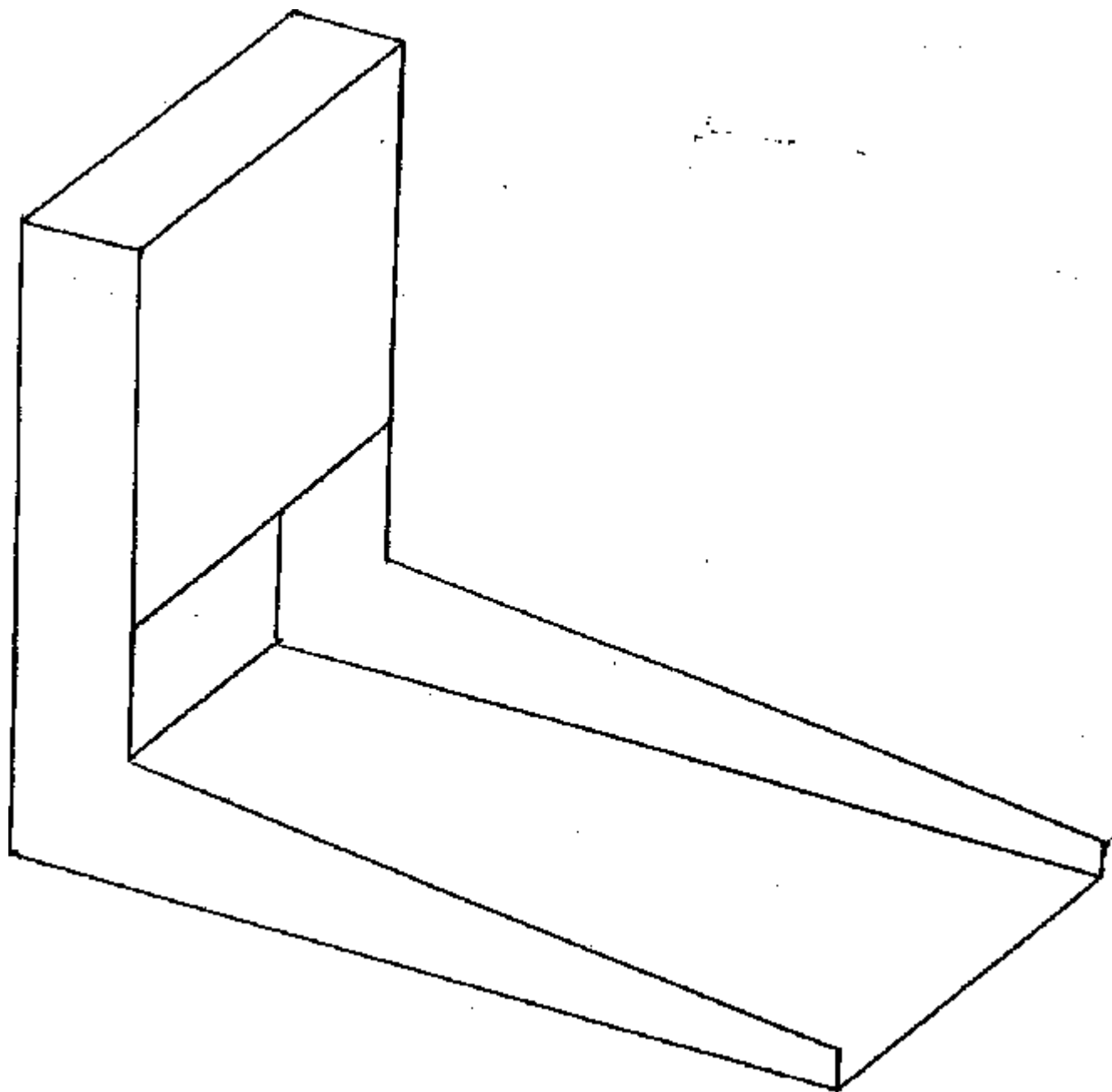
【図5】多種類自動販売機にジュースを入れているところ

【符号の説明】

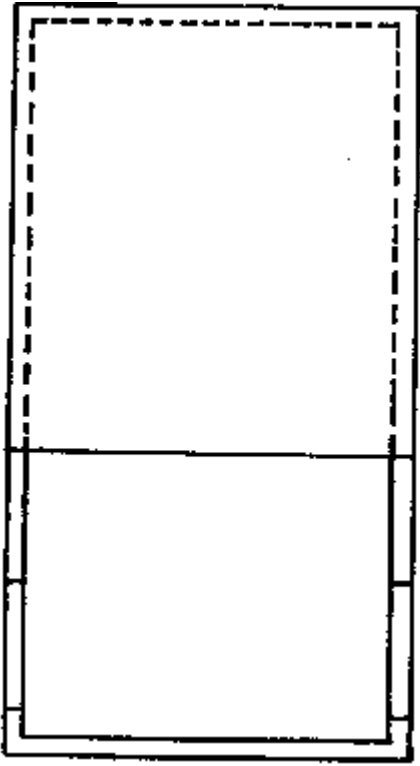
1 製品 2 ジュースの箱の上蓋 3 ジュースの箱

4 多種類自動販売機

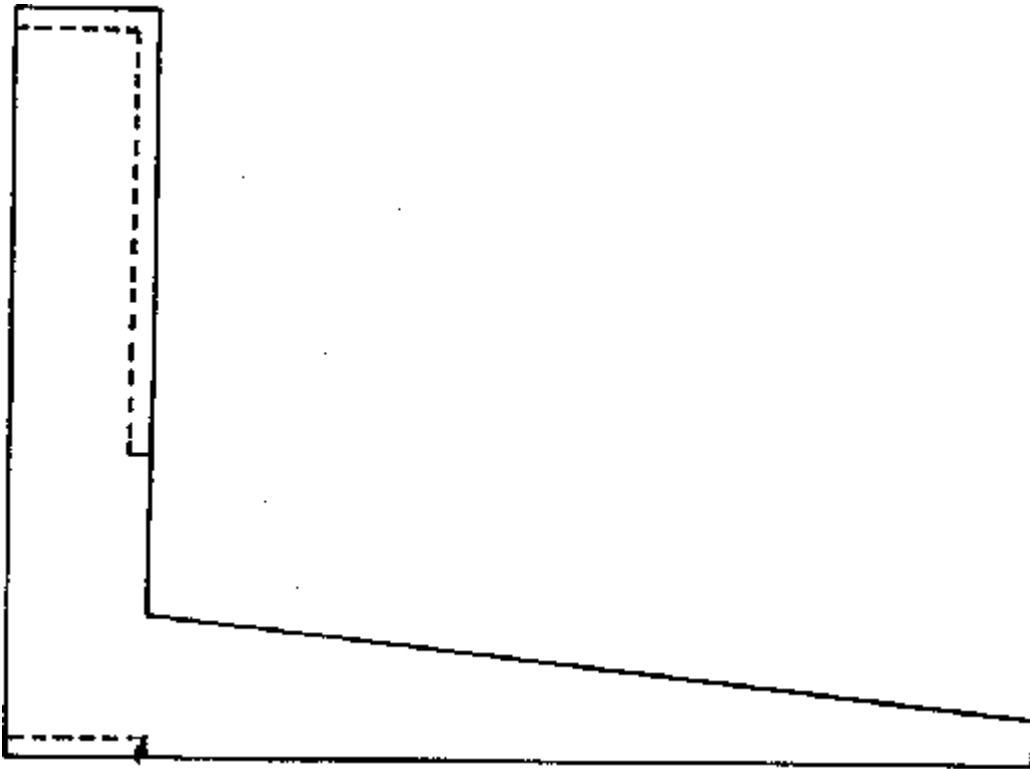
【図1】



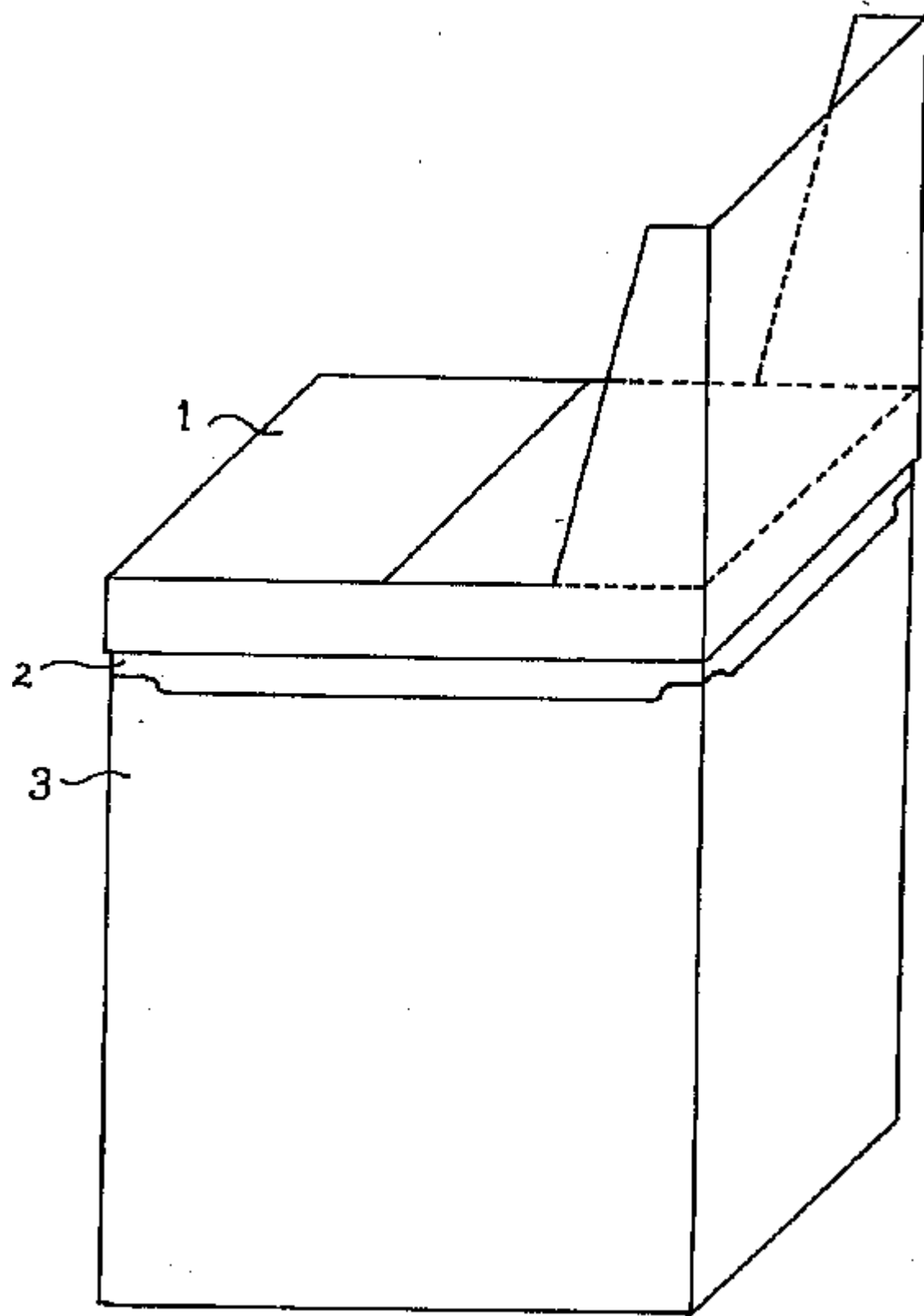
【图2】



【图3】



【图4】



【图5】

